

スタッフニュース



いいところ見つけた！ 成田市坂田ヶ池公園

成田市坂田ヶ池総合公園は、成田市の北西に位置し、JR成田線下総松崎駅から北へ約1kmの地点にあり、主要地方道成田安食線と成田安食バイパスに挟まれています。本公園は、平成元年度のふるさと創生事業をきっかけとして整備された、約5haの水面を有する坂田ヶ池を囲み、北側に隣接する千葉県立房総の村と一体となる豊かな自然と水に囲まれた総合公園です。

園内には龍神降雨伝説にちなんだ遊具（その中には全長78mにもなるジャンボスライダーがあります！）をはじめ、湿生植物園、野鳥観察所、キャンプ場、釣りエリア、芝生広場などがあり、自然にふれながら楽しく過ごすことができます。特に、坂を登ったところにあるキャンプ場にはテントサイトと炊事場が設置されており、こちらのみ有料となりますが家族や団体によるバーベキューや、キャンプなどで使用することができます。

▶ キャンプ場



◀ ジャンボスライダー

また池の中央にある一面の蓮の花をはじめ、公園内では四季折々の美しい風景を楽しむこともできます。たくさん遊んだ後は、子どもから大人まで、ゆっくりと自然を感じてみてはいかがでしょうか。

千葉市で第49回関東甲信越静公民館研究



8月21日(木)・22日(金)、第60回千葉県公民館研究大会を兼ねた第49回関東甲信越静公民館研究大会(主催:関東甲信越静公民館連絡協議会、全国公民館連合会、千葉県公民館連絡協議会)が、千葉市民会館をメイン会場に開催されました。この大会は、公民館を取り巻く環境が大きく変わろうとしている今、公民館の原点に立ち返り、地域や暮らしに根ざした公民館のあり方を研究討議し、これからの公民館の可能性を探ることをねらいに、「公民館の限りない可能性を求めて～変わらない理念が公民館を変えていく」を、メインテーマにすえて行ったものです。関東甲信越静1都10県から1,069人(うち本県参加者は604人)が集い、熱心な研究討議を通じて交流を深めました。

大会は左近大会副実行委員長からの基調提案「公民館関係職員は、公民館の原点と社会教育法に基づいて、ゆるぎない公民館の可能性を確認し、その活動にまい進することが今必要です。公民館として今必要とされている地域的に課題をもう一度見直し、先人たちが創り上げてきた活動を継承しながらも、新しい時代の対応した公民館活動を進めるには職員はどう関わらべき

か…。参加者一人ひとりが、公民館は『誰のために、何のために、何を求めて』存在しているのかを自分自身に問うことから始め、メインテーマを考察していこう」という内容の言葉でスタート。公民館の初心(歴史に基づいた原則)を確認することをねらいに、千葉県公連制作ビデオ「私たちの学びとともに」を上映しました。また基調講演では「公民館草創期の理念を現代的にどう発展させていくかー公民館の限りない可能性を考える視点」をテーマに、東京学芸大学名誉教授の小林文人さんにお話しいただきました。これに続くパネルトークでは、研究者の立場から国立教育政策研究所総括研究官の笹井宏益さん、住民の立場から君津市君津地区公民館運営審議会委員の齋藤みどりさん、職員の立場から千葉県公連の朱膳寺宏一会長を登壇者に迎え、千葉大学教育学部教授の長澤成次さんの司会進行により、それぞれの研究・実践活動からこれからの公民館の可能性を探りました。

大会2日目は、公民館が取り組む必要があると考えられる課題「公民館運営審議会」「高齢社会と公民館」「事業に生かす人権の視点」「家庭教育と公民館」「公

栄えある受賞おめでとうございます。

今年度の優良公民館表彰(所管・文部科学省)は、千葉県から木更津市立富来田公民館、習志野市大久保公民館の2館に決定しました。千葉県で複数の公民館が受賞するのは、昭和23年に文部省優良公民館表彰が始まって以来、初めてのことです。また、平成20年度千葉県教育功労者(団体の部)として、君津市清和公民館が、さらに第49回関東甲信越静公民館研究大会において次の方々が表彰されました。

第61回(平成20年度)優良公民館表彰

・木更津市立富来田公民館

<受賞理由> 学校や社会教育団体等との緊密な連携・協働により事業を実施している。特に「サ

タデースクール」事業は、土曜日の子どもの居場所作りの一環として、ものづくりや自然体験、キャンプなど異年齢集団の中での様々な経験からたくましい人間づくりを目的に取り組んでいる。また、公民館だより「ふくた」を発行するなど広報活動にも積極的に取り組んでいる。

・習志野市大久保公民館

<受賞理由> 生涯学習の拠点として地域に密着した運営を心がけ、地域住民で「大久保公民館地区学習圏会議」を組織し、住民参加型の取組みを通じて、まちづくりにつながる事業を積極的に企画・実施している。特に「PTA家庭教育学級」では、幼稚園・小学校・中学校の発達段階に応じて、学校と公民館

大会を開催



民館の管理運営」「子ども・若者と公民館」「公民館事業の評価」「学校・家庭・地域の連携と公民館」「市民との協働と公民館」「公民館職員の専門性と研修」「情報提供と公民館」「健康学習と公民館」「環境学習と公民館」「公民館Q&A」「特別分科会」の15の分科会を設定し、各都県の取組事例発表を基に熱のこもった討議を展開しました。

この大会は千葉県公民館研究大会としても第60回を記念するものであり、県公連をあげて実行委員会を組織、約1年をかけて議論を重ねながらの運営となりました。県内の各公民館は、厳しい職員体制ながらも総勢150人ほどの職員を実行委員として選出。本務を抱えつつ影から大会を盛り立てました。各公民館関係者それぞれが大会開催趣旨を理解し、大会への意識を持って取り組んだ結果、大勢の参加者にも恵まれ、みんなで作りあげる過程を大切に取る千葉県公連らしさが発揮された関ブロ研究大会になったと思います。

が密接に連携しながら、企画から実施まで携わり、家庭教育の振興を図っている。

千葉県教育功労者（団体の部）

・君津市清和公民館

＜受賞理由＞ 豊かな自然や文化財等に恵まれ、住民の生活に密着した活動を行ってきた。子育て支援事業や地域の大人と子どもの交流に力を入れた青少年事業や地域住民が編集企画を推進する「館報せいわ」の発行など特色ある事業を展開している。

公民館優良職員表彰

・左近正久さん（銚子市市民センター所長）

＜受賞理由＞ 郷土史学習の先駆けとなる「銚子を知る親子の会」を青少年相談員、小学校との協力を

第49回関ブロ研究大会兼第60回県公連研究大会 ご協力ありがとうございました

関東甲信越静公民館連絡協議会会長 朱膳寺宏一

8月に開催された関ブロ大会及び県公連の60回記念大会は、天候にも恵まれ、1,000名を超す参加者がありました。行財政改革や市町村合併等、今日の公民館を取り巻く環境は厳しいものがありますが、これだけの多くの公民館関係者の参加を得て開催できたことは、大会実行委員の皆様方をはじめ、専門委員会を中心とした各部会や地区公連そして、開催地千葉市の多大なるご協力と県教育委員会の全面的なお力添えをいただいた賜物であり、衷心より御礼申し上げます。

大会は、大きな事故もなく無事終えることができましたが、公民館を巡っては、予算減や職員減が進む中で、法改正によって運営の評価や成果の提供が定められるなど、公民館の全体的な運営の充実が求められています。と同時に新しい時代の公民館の可能性を示唆するものでもあります。こうした厳しい状況の中でも、公民館の限らない可能性を求めて、県公連としても地区公連や専門委員会の活動を活発にし、その成果を各市町村に持ち帰って、それぞれの市町村の公民館活動に寄与できればと考えております。

公民館はそれぞれの市町村やそれぞれの置かれた地域によって、その運営も様々です。その特徴を生かしながら、公民館活動にまい進していただければ幸いです。それには、各地区公連や専門委員会もそれぞれの置かれた公民館の実情を理解しながら、諸活動を進めることが肝要です。県公連としても県内公民館の置かれた実状を理解し、県内公民館の「和」を大切にしながら、これからの諸活動を進めていく所存です。

今後は、本大会を無事成功させた自信と、本大会で学んだことを活かしながら、より情報を共有しながら県内の公民館がともに仲間として歩んでいけるよう期待しております。現在、関ブロ大会記録集を広報資料部会で作成中ですが、本大会で上映したビデオは、千葉県公連が50周年記念として作成した「私たちの学びとともに」の一部を編集したものです。このビデオが大変好評でしたので、大会記録集とともにDVD化して完全版を参加された皆様に配布する予定です。

終わりにあたって、参加された皆様方や実行委員会をはじめとして、関係者の皆さま方に心から感謝を申し上げ、御礼の御挨拶といたします。

より展開。また青年サークルとの協働により「青年団体連絡協議会」を組織し、青年の活発な街づくりへの啓蒙活動を図るなど銚子市の公民館活動の礎を担った。また、県公連活動においても、研究委員会、館長部会に籍をおき、公民館活動の理論構築、館長の研修活動に貢献した。

永年勤続職員表彰（勤続15年）

- ・内海和夫さん（元 船橋市高根公民館）
- ・蜂谷芳雄さん（船橋市三田公民館）
- ・伊藤公夫さん（元 野田市中央公民館）
- ・山下要一郎さん（木更津市立中郷公民館）
- ・大岩裕幸さん（市原市立五井公民館）



第118回主事部会研修 元気の出る公民館職員論

9月24日、千葉市新宿公民館を会場に、第118回主事部会研修「元気が出る職員論」が開催されました。この研修で講師を務められた、前 木更津市中央公民館長・松沢健治さんは冒頭「研修で何を学ぶべきか」について「会場の施設・雰囲気・展示・住民と職員とのやりとりを感じとる」「他の自治体の友人や知り合いを多く作る」「研修を受ける権利を守る」「そして最後が“講師の話”」という4つのポイントを示されました。

松沢さんはこのあと、教育委員会職員と首長部局職員の住民に向き合う態度の違いや、社教法第2条に定められた組織的な教育活動と個人的な学習の違い、公民館主催事業の重要性についても話されました。「サークル活動に入りたくても入れない人は多い。それは、サークルは活動が続いてある程度のレベルに達しているが、新たに入ろうとする人には、素養や下地がないケースが多いから。だから担当者がいて、全体に目配りしながら進めていく主催事業はとても大切なのである。担当者があって、あいさつや声かけができる。そこから始まる関係づくりが非常に重要な意味を持つのである。何をしたいかわからない、地域デビューできない、いわゆる団塊の世代と呼ばれる人たちにむけて



講師の松沢健治さん

▶ 会場の様子



の高齢者事業をやりましょう。このことは、求められていることであると思うし、福祉的な見地からも非常に重要ではないだろうか。」と、主催事業への職員の積極的な働きかけを求めました。

そして最後に「公民館は住民と直接やりとりのできる、自治体職員としても非常に重要なポジションである。ここでしっかりがんばってほしい」と結びました。心に響く先輩からの言葉がたくさんのお話であったと思います。

初任職員研修会 はじまる！

新しく公民館で働くことになった職員の皆さんを対象にした「20年度県公連初任職員研修会」が、10月17日、千葉市幕張公民館を会場にスタートしました。開講式では、高瀬委員長から「この研修会は、公民館の歴史や課題、法制等、社会教育・公民館に関する理論や実践について学習します。うけたまわりの研修ではなく、皆さんの主体性を発揮していただき日ごろの疑問や課題を議論しながら進みます。大いに交流し意見交換してください」とあいさつがありました。

研修はこのあと「公民館職員のためのレクリエーション」からスタート。講師は千葉県レクリエーション協会理事の水上道子さんで、はじめて出会った皆さんですが、笑い声の飛び交う2時間になりました。午後



さん（君津市周西公民館）と鈴木研也さん（酒々井町中央公民館）から「この研修を機会に、さらに公民館についての学習を深めてください」との激励メッセージがありました。

この研修会は、毎月1回で来年2月6日まで計5回開催されます。参加者の皆さん、楽しく学んで友人をつくり、がんばってください。



宿泊研修会は1月20日～21日



主事部会第119回研修「宿泊研修会」は、鴨川市にある千葉県市町村職員共済組合保養所「黒潮荘」を会場に、平成21年1月20日（火）13:00～21日（水）15:00の1泊2日間の日程で開催します。今回のテーマは「公民館の原点に学ぶ」とし、講演やパネルディスカッション、グループワークなどを予定しています。ぜひご参加ください。詳しくは、別送の開催要項をご覧ください。



地域の生涯学習施設としての公民館

館長

千葉市桜木公民館 館長 成田定男さん

千葉市では、生涯学習センターを頂点として中核公民館6館と地区公民館41館の計47公民館があります。

私の勤務する公民館は地区公民館の位置付けの公民館です。館の施設としては、講堂・講習室・調理室・会議室・和室があり、嘱託主事・非常勤職員と3人で事業及び管理運営を行っています。

千葉市における生涯学習の最前線に立ち、地域の皆さんと共に「生涯学習の場づくり」を実践しています。当公民館では「つどい・まなび・つなぐ」をテーマに各種の事業を展開しています。具体的には「自主的な学習活動を推進する事業」「公民館独自の事業」「利用者に学習の情報提供と交流の場づくり事業」などの事

業を行っています。

自主的な学習活動を推進する事業に関しては、主に「公民館クラブサークル連絡協議会」の活動をメインに推進しており、利用団体等の連絡調整が図られています。

公民館独自事業は「子育て支援講座」「高齢者学級」「土曜こどもクラブ」などの事業を地域住民に提供しています。

また、学習情報の提供や交流の場づくりに関しては当館利用サークル・団体の情報提供や、千葉県・千葉市などの公共団体が主催・後援する生涯学習事業・文化・芸術事業などの情報提供を行っています。当公民館では地域の学習施設として、公民館と利用する市民及び団体が両輪になりまして、地域の人々の「つどい・まなび・つなぐ」のできる公民館でありたいと考えています。



公民館スタッフのつばやきコーナー

職員

人との出会いを大切に

浦安市当代島公民館 上田由記さん

公民館に異動してきて7カ月が過ぎました。これまでに私が携わった仕事は、国際交流課での市内在住外国人の支援、議会事務局での市議の庶務や議長の公務随行、健康増進課では妊娠している方や赤ちゃんの健康診査の事務など、サービスの対象や分野がはっきりしていたと思います。しかし公民館に来て、赤ちゃんから高齢者までという幅広い対象、そして求められるサービスもその人の事情によってさまざまであることに驚きました。また、公民館職員は窓口業務や主催事業など、常に住民と向き合っていると思います。住民と向き合うことが仕事というこのような職場は、首長部局や教育委員会事務局の中には、実はあまりないのでは…? と思ったりしています。

4月から6月までは、前任者の主催事業を引き継ぐ形での仕事为主でしたが、7月以降は自分で主催事業を企画して実施しています。住民が求めている学習とはいったいどのようなものなのか、また仮にテーマが見えてもどのような講師がいいのか、事業内容をもっと充実させるには何が必要かなど、初めてのことばか

りで本当に戸惑いながら、ときにはパンクしそうになりながら、毎日頭をフル稼働させています。

このようなときに頼りになるのが、今まで一緒に仕事をしてきた仲間です。ときにはアドバイスをしてくれたり、ときには講師として公民館に来て協力してくれたりします。あらためて「人とのつながり」の大切さが身にしみます。また、公民館で知り合った方や講師からも、主催事業のヒントをもらえることがあります。こうして出会う人たちの中には、もしかしたら二度と会えない方もいるかもしれません。一期一会… これからも、一つひとつの出会いを大切にしていきたいと思います。そして、10月から参加している初任職員研修で学ぶことなどを活かしながら、公民館職員として一人前になっていきたいと思っています。よろしくお願ひします。



スタッフ伝言板

まちより むらより、

地域の中で育てよう！「志津子ども教室」

佐倉市立志津公民館 TEL 043-487-5064

今から5年前のことですが「地区の小学生だけで4,000人もいるのに、子ども料理教室への応募がとうとう2人になってしまった。内容に問題があるのか、宣伝に問題があるのか…」と、青少年事業の改善の必要に迫られました。とりあえず、小学生の親30人ほどに声をかけてアンケートを実施。その結果、親としては、理科実験や英会話、パソコン、水彩画などのような、学校の授業の補完的な教室をやってもらいたいという意見が多くありました。

このような要望を取り入れ、また公民館側の考えとして行ってきたい自然体験や生活体験、社会体験の教室もおりませ、平成16年度に「志津子ども教室」（年間20教室）を開設しました。電話で先着順という仕掛けも加え、受付と同時に定員に達してしまうほどの人気教室となりました。当初、青少年事業予算がほとんどなかったことが幸いしてか、ボランティア指導者として公民館利用者をはじめ多くの地域の方々に参画していただき、現在では「地域の中で子どもたちを見守り育てる」施策の成果となっています。

教室の一つ、理科実験では、志津市民大学自然科学



コースの卒業生が指導しています。いわゆるプロの指導者ではありません。くだもの電池でプロペラを回す実験では、回るはずのプロペラが回らず実験は失敗。それでも試行錯誤を続け、「やった！回った！」と子どもも指導者の大人も声を上げ、みんなの満足そうな顔が印象的でした。ほかにも、公民館利用者の日ごろの学習が、里山の探検や車イスで地域発見などの子ども教室で活かされています。本教室を通して、大人は子どもから元気もらい、子どもは周囲の大人の温かいまなざしを実感できる機会になればと思っています。

印西 I T ボランティア共催 「初心者向けパソコン講座」

印西市立中央駅前公民館 TEL 0476-46-5111

初心者向けパソコン講座は、パソコン操作を前提としたサービスが普及している現在こそ、初心者が学習する機会が必要と考え、ボランティアサークルの育成も兼ねて実施しています。内容は初心者向けに限定し、電源スイッチの入れ方・切り方から入ります。定員20人に対し、常に40人程度の応募がある、人気講座の一つです。

この講座の特徴は、市の I T ボランティア養成講座の修了生が中心となった『印西 I T ボランティア』と中央駅前公民館とが、共催で事業を実施していることです。印西 I T ボランティアは、平成15年度に有志の集まりとして講師を行い、平成16年度に中央駅前公民館で『I T を推進して地域を活性化する』ボランティア団体としてサークルに推移しました。1年目は講師として、2年目以降は企画段階から携わってもらっています。また、講座の充実を目指し、月1回の学習も行っています。この講座実施時の特徴としては、指導者数が充実していることと、講師料が無料であることが挙げられます。講師と補助者合わせて10人程度の指導者で、20人の受講生を教えており、指導の厚さで好



評を博しています。講師料が無料であるため、受講生からはテキスト・CD-ROM等の教材費300円を集めるだけで済んでいます。公民館は、事業の企画、会場の確保、機器の管理・更新・設定・修復、受講生の募集などを行うと共に、サークルの育成として、印西 I T ボランティアの要望を受けながら、サークルとして目指すべき方向を示し、よりよいサークルに成長できるように協同しています。

今後は、より多くの市民がパソコンを操作できるよう働きかけるために、印西 I T ボランティアの質を高めながら、市内四つの公民館すべてで事業を実施していきたいと考えています。

持ちより 公民館だより

元気ハツラツ！ 長寿大学

我孫子市我孫子地区公民館 TEL 04-7182-0511

長寿大学は、65歳以上の方を対象にした4年制の学級です。今年度、第35期生の入学を迎えることができました。公民館講座の中でも長い歴史があります。

学級生相互の親睦（仲間作り）を図り、地域の課題などを楽しく学びながら、地域活動、まちづくりなどに積極的に参加できることを目的に開設しています。

一学年50名の仲間と和気あいあいと学習をしています。4月の1年生入学式に始まり、3月の4年生卒業式まで、各学年26回の学習をします。

講師を招いての講義のほか校外学習、全学年一緒におこなう合同学習、運動会、大学祭など盛りだくさんです。それぞれの行事に実行委員会を組織し、計画、運営に携わっていきます。誰もが何かの役割に付いて、一生懸命活動します。自主運営、これが長寿大学の特色です。そして学習を通して知識だけでなく、皆で協力し行事を成功させることで、たくさんの仲間を作り、生涯の友人を得る方もいるようです。

皆さん毎回の出席をととても楽しみにされているよう



で、4年間皆勤という方も毎年何名かいて、元気さと熱心さにとっても感心させられ、いつも元気に学習に取り組んでいます。

その元気パワーで、卒業した後も地域での活動に、さらに活躍していただけることを期待しています。

将来は地域を担う国際人！ 英語で遊ぼう講座

白子町公民館 TEL 0475-33-2111

日本人は、英語教育を長年受けているのに、英語を話せる人がほとんどいない、といった事をよく耳にします。実際、職場の窓口で米国人がみえた時、英語が話せる職員が一人もおらず「△△課の〇〇なら喋れるんじゃないか？」などと、かなりあわてたことがありました。やや英語がわかる職員が身振り手振りを交えて、どうにか切り抜けましたが…（汗）。

国際化、また現に外国人の住民が増えている今、国際語である英語を話せる人材の必要性を強く感じます。

最近では、小学校から英語を授業にとりいれたり、外国人講師を採用したりと、学校教育現場での英語の指導にも変化が見られますが、町の公民館講座でも従来の英語教室的なものでなく「話すことの第一歩は、英語を心から好きになること！」そんな講座を開講できればと考え、まだ頭のやわらかい幼児から小学校低学年の児童を対象に、遊びを通じて英語に親しむ「英語で遊ぼう講座」を開講することになりました。遊びを通じて英語に接する内容であれば、きっと子どもたちは楽しい、子どものころ楽しかったことは、その子の将来にもよいイメージとして影響するだろうし、この講座をきっかけに、将来、英語を柔軟に楽しんで受け入れられる人になってほしいとの思いがあります。10月の講座のテーマは「ハロウィン！」。ハロウィン



といえば仮装がおなじみです。この日、子どもたちは思い思いの仮装で講座に出席、日本と異なる外国文化に興味津々、英語を交えてのハロウィンパーティーにすっかり引き込まれ、知らず知らずのうちに講師の先生と英語でやりとりをはじめます。

いちがいに「遊び」といっても、成長する過程で様々なことを教えてくれるもの、絶対に必要なものです。ただ英語を使って遊んでいるだけでも、きっと子どもたちにとっては英語を身近に感じ、これからの英語観に親しみをもってもらえるのではないのでしょうか。将来、この子どもたちが英語を話す大人になってくれば、いいなあと感じます。

Qiball (きぼーる) は、2007年の10月20日、新たな千葉市の魅力の一つとして、千葉都心にふさわしい景観の形成と、市街地の活性化を目的として、中央区にグランドオープンしました。「Qiball (きぼーる)」という名前は「希望のボール」という意味を表しています。このきぼーるから様々な体験を通して、子どもから大人までたくさんの希望を胸に、輝く人生を迎えられるように、という思いが込められています。今回は、きぼーるの基本的な構成のほか、アトリウム、そして特にメインとなっている3つの各施設をご紹介します。



<きぼーるの構成> きぼーるは、市民が快適に利用できる機能的な複合施設となっており、ビジネス支援センター (13～15F)、中央保健福祉センター (11～12F)、科学館・プラネタリウム (7～10F)、子育て支援館 (6F)、子ども交流館 (3～5F)、ショップ&レストラン (1～2F) と、大きく6つに分かれています。

<アトリウム (=エントランス)> きぼーるの面白さは、建物に入った瞬間から始まります。中のアトリウムへ一歩踏み込むと、巨大な球体がまず目に飛び込んでくるでしょう。この球体は、科学館の施設の一部で、木星をイメージしたものです。アトリウムでは、各種イベントが開催されるほか、季節ごとに変わる「動くプロジェクター」によるアニメーションが毎



晚上映されます。各施設はテーマカラーが決められており、アトリウムから各目的施設への案内表示に役立てられています。夜は、柔らかく温かな光がきぼーる全体を優しく照らし、なんとも言えない素敵な雰囲気を醸し出しています。

<子ども交流館> 子どもの健全な育成と、交流を目的として設置されました。18歳未満の子どもを対象とした、無料で利用できる遊びと学びの場です。3F (遊びのフロア) では、ロビーのほかにバスケットボールなどの球技やコンサート、上映会にもご利用できるアリーナがあります。4F (創造のフロア) では、バンド練習ができる音楽スタジオや、工作が楽しめる工房、調理室などが

あります。5F (憩いのフロア) では、映画などが鑑賞できるAVコーナーや、図書コーナー、パソコンコーナーのほか、大型遊具が魅力のプレイルームがあります。

<子育て支援館> 子育て支援館は、乳幼児の健やかな育成と子育て家庭を支援することを目的として設置されました。プレイホールでは、大きな遊具や創作・絵本のコーナーなどがあり親子一緒に色々な遊びを楽しめます。親同士で情報交換をしたり、



保育士のスタッフに相談して悩みを解消することもできます。色々な子育て情報や定期的な催しとともに、子育てについて楽しく学び、安心して過ごせる場所です。

<科学館・プラネタリウム> 科学館は、「人が主役」と「参加体験型」をキャッチフレーズとして、充実した展示やワークショップを中心に、体験しながら科学の原理を幅広く学習することができます。8F (ワンダertown) では、視覚・音・光・数・形のメカニズムを体験します。9F (テクノtown) では、科学と技術をテーマとし、生活の豊かさを象徴する産業・科学技術のしくみを学びます。古い家電やおもちゃが並べられたコーナーもあり、大人の方でも懐しく夢中になれるフロアです。通路にも、凝った工夫がなされています。10F (ジオtown) では、生命・自然・地球から宇宙までの不思議を体験します。

プラネタリウムは、直径23mの大型ドームスクリーンから投影される星の数1,000万個以上を誇り、天の川など美しさをそのままに、鮮明に再現することができます。科学館へ入ると、当たり前のように起こる全ての現象など、世界は様々なトリックで囲まれているのだと、とても面白く楽しく感じられるでしょう。また、人間の限りない頭脳の発展に、改めてその素晴らしさを感じることができます。



ちばけん公民館スタッフニュース 第98号

編集：千葉県公民館連絡協議会 広報委員会
委員長：稲岡正道 (浦安市当代島公民館)
〒279-0001 浦安市当代島2-14-1
Tel. 047-382-1700 Fax. 047-382-1705
発行：千葉県公民館連絡協議会